

D 三島・沼津

三島・沼津エリアは、三島から沼津への通学路周辺、沼津中心部、三島・沼津周辺部に分けられます。主要なスポットは沼津中心部に集中していますが、時間があれば、通学路や周辺部にも足をのばしてみましよう。

D-1 三島・沼津

通学路の旧東海道を歩く

洪作は、三嶋大社前における伯母の家に下宿し、沼津中学までの約5kmの道を、同級生の増田、小林と共に毎日歩いて通学しました。通学路は旧東海道で、ところどころに松林が残り、チンチン電車も走っていました。

三嶋大社周辺エリアは見どころが集中しており、徒歩十分程度で気軽に回ることが出来ます。また、清水町の智方神社周辺エリアもおすすりめです。通学路全体を訪ねる場合には、足に自信のある方は徒歩で、それ以外の方は路線バスを御利用ください。



3 三嶋大社

伯母の家の筋向いに三嶋大社の大鳥居があります。また、境内の神鹿園の鹿は、「靴事件」の場面で「仕合せな生きもの」として登場します。

2 真門家(間宮家)

真門家は洪作が下宿していた伯母の家です。そのモデルは間宮家と言われ、三嶋大社の筋向いにある、土蔵と檜の木が目印の家です。個人のお宅なので、外から静かに見学しましょう。

6 千貫樋

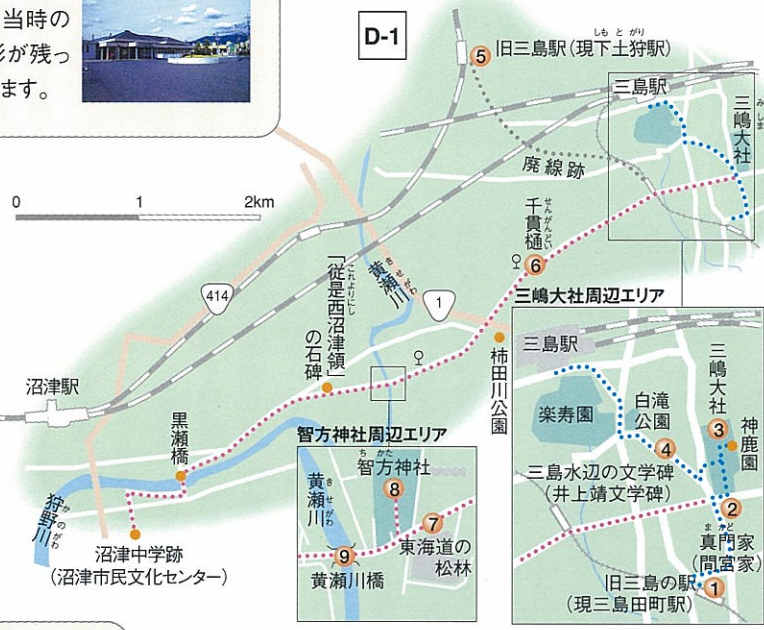
三島と沼津の間の境川付近にある、地上にかけられた用水路の樋です。この付近の東海道は当時、坂になっていました。

5 旧三島駅(現下土狩駅)

昭和9年に丹那トンネルが開通する前は、「東海道線三島駅」と言えば、現在の御殿場線下土狩駅のことを指していました。広いロータリーに当時の面影が残っています。

9 黄瀬川橋

通学途中に何回も登場する橋で、南の方角には香貫山を望めます。



8 黄瀬川の神社(智方神社)

通学途中に一休みした神社です。境内の榎の木に隠した靴が失くなる事件がありました。今でも靴の隠せそうな大きな木がたくさんあります。

4 三島水辺の文学碑

白滝公園から三嶋大社までの桜川沿いのプロムナードには、10名の文学者の碑が立っています。井上靖の文学碑は一番南側にあり、小説『少年』の一節が刻まれています。

7 東海道の松林

当時は多くの松並木が残っていましたが、現在はこの部分にその風情が残るだけです。

1 旧三島の駅(現三島田町駅)

軽便鉄道の「三島の駅」は、現在の伊豆箱根鉄道線三島田町駅です。洪作が湯ヶ島に帰る時には、ここから軽便鉄道に乗りました。また当時は、この駅から沼津まで「チンチン電車」が走っていました。

「夏草冬漚」より、三島と沼津をつなぐ道は、電車が走っている東海道本しかなかった。三人の少年はそこを歩いて行く。三島の街を外れると、両側の店舗は次第に農家に替って行つて、やがて人家の切れていくところに松林が置かれ始める。三島と沼津の丁度中間に黄瀬川が流れていて、その橋の傍に小さい神社がある。少年たちはいつもここで休みする。歩き出してから三十分経っているのに、体は汗ばんでいるし、息入れたいところである。

D-2 沼津中心部

洪作と仲間たちの青春舞台

「夏草冬漚」に登場する洪作とその仲間たちが遊びまわったのは、沼津の中心部、約3km四方の範囲内です。沼津駅を出発し、あゆみ橋を渡って、沼津中学跡地(現沼津市民文化センター)、そして御成橋周辺を見て沼津駅に戻ると、コースならば、徒歩40分ぐらいで回ることが出来ます。それ以外を訪ねる場合には、時間のある方は徒歩も可能ですが、路線バスや自家用車の御利用をおすすりめします。時間に任じて自由に組み合わせましょう。

このコーナーでは、沼津中心部を次の四つのエリアに分けます。

●黒瀬橋から沼中へのエリア(P17)
洪作の通学路の最も学校に近い部分。狩野川の堤を川風に吹かれて歩き、沼津中学跡地を見学します。

●香貫山エリア(P17)
沼中生の遊び場の一つであった香貫山に登り、狩野川、駿河湾、富士山などの雄大な景色を眺めます。「夏草冬漚」の舞台を上から眺めて味わうことができます。

●御成橋周辺エリア(P17)
御成橋や大阪屋跡など、少年たちのたまり場を訪ねます。

●沼津駅十妙覚寺十本浜エリア(P18)
洪作が預けられた妙覚寺や仲間とたわむれた千本浜などの重要スポットを訪ねます。このエリアには、他にも若山牧水記念館やお寿司がおいしい港食堂街など楽しみがいっぱいです！沼津を思う存分味わおう！

